

## 競技注意事項

## 1. 規則について

- (1) 本大会は最新の WA 競技規則、2025 年度日本陸上競技連盟規則、並びに本大会申し合わせ事項に従って実施する。

## 2. 招集について

- (1) 第一次招集は、招集所にて番組編成にある本人の組・レーンを確認し、ナンバーに○をつけること。その際、選手本人がユニフォームを着用した状態で集まり、胸アスリートビブス・腰ナンバーカード・競技使用予定のシューズを持参し確認を受けて招集完了とする。
- (2) 5000m 以上のトラック種目については、第一次招集時に腰ナンバーカードと番号をあわせた長距離専用別アスリートビブスを配付する。ただし、女子 10000m に限り、レーンナンバーに 30 を加えた数字の長距離専用別アスリートビブスを配布する。なお、長距離専用別アスリートビブスは競技終了後、競技者係が回収する。
- (3) リレー競技の第一次招集は、出走者 4 名全員が受けること。その際、上記確認事項に加え同一ユニフォームであるかを確認する。
- (4) **TR24.11** に関わらず、リレーオーダー用紙は第一次招集開始時刻の 10 分前までに TIC まで提出すること。リレーオーダー用紙を提出しなかった場合、そのチームは欠場とみなす。（「3. 欠場について」参照）
- (5) リレーオーダー用紙提出後の選手変更は、本大会の医師、医務員の判断がない限り認められない。この規則に従わなければチームは失格となる。（TR24.11）
- (6) 同一時間に 2 種目以上出場する競技者、および競技中のため他の種目の第一次招集を受けられない競技者は、第一次招集完了時刻までに重複出場届を TIC に提出すること。
- (7) 重複出場届を提出した場合も、必ず本人または代理人が第一次招集を受けなければならない。その際、重複出場届の控えを持参すること。
- (8) 重複出場届を提出した代理人は第二次招集に参加し、出発係にその旨を報告し、本人が来るまで責任を持つこと。
- (9) 招集は、招集所にて下記の通り行う。

種 目	第一次招集		第二次招集
	招集開始時刻	招集完了時刻	招集完了時刻
トラック競技	競技開始 30 分前	競技開始 20 分前	競技開始 10 分前
やり投	競技開始 50 分前	競技開始 40 分前	競技開始 30 分前
投擲種目(やり投以外)	競技開始 70 分前	競技開始 60 分前	競技開始 50 分前
跳躍種目	競技開始 60 分前	競技開始 50 分前	競技開始 30 分前

- (10) リレーオーダー用紙・重複出場届・当日欠場届は TIC にて配布する。

## 3. 欠場・選手変更について

- (1) 事前に欠場者が判明している場合は大会 4 月 2 日（火）正午までに事前欠場届を関西学連 (icaak.rec@gmail.com) までメールにて提出すること。
- (2) 当日欠場は原則として認めない。やむを得ず当日の欠場をする場合は、当日欠場届に必要事項を記入の上、第一次招集開始時刻までに TIC に提出し承認を得ることで、欠場が認められる場合がある。なお、当日欠場届には、監督および本人のサインを記入すること。
- (3) リレー競技の当日欠場についても上記の手続きを満たし、第一次招集開始時刻までに当日欠場届を提出すること。

## 4. 競技者の服装について

- (1) 同一大学は、事前に学連に提出した同一のデザインのユニフォームを着用すること。（提出したユニフォームと異なれば出場を認めない）。これはリレー競技に限らず、すべての種目

について適用する。提出したものと異なる形状のユニフォーム（トップスとショーツなど）を使用する場合も、色・デザインを統一させること。

- (2) アスリートビブスは関西学連が配布した 2025 年度登録番号を使用し、ユニフォームの胸部および背部に明瞭につけること。ただし、跳躍競技においては胸部または背部の一方だけで良い。
- (3) 5000m 以上のトラック競技について、第一次招集時に受け取った長距離専用別アスリートビブスを使用すること。
- (4) 全てのトラック競技の腰ナンバーカードは右腰に明瞭につけること。ただし、1500m 以上からは両腰につけること。腰ナンバーカードは第一次招集時に招集所にて配付する。
- (5) 本大会は TR5.2 を適用し、規格外のシューズの使用は全て禁止とする。
- (6) 使用するスパイクのピンの長さはトラック・フィールド共に 9mm 以下とする。ただし、走高跳およびやり投については 12mm 以下とする。(TR5.2)

#### 5. 競技用器具について

- (1) 使用器具は原則として競技場備え付けのものを使用すること。ただし個人所有の投擲物の使用を希望する場合は、競技開始 100 分前から 80 分前に検査を受けて許可を受ければ、使用することができる。検査は北側器具庫前(100m ゴール付近)で行う。
- (2) 棒高跳用ポールは各自が持参したものを使用すること。
- (3) リレー及びフィールド競技のマークは、養生テープを使用すること。競技場保護のため、それ以外のテープは認めない。

#### 6. トラック競技について

- (1) 計時について、トラック競技の計時は写真判定（0.01 秒）とする。ただし、装置に故障等のトラブルが生じた場合、手動計時（0.1 秒）とする。
- (2) 組編成のためのランキングの順位を決定するときや次ラウンド進出のための最後の 1 枠を決めるにあたり異なる組で同成績がいる場合、0.001 秒の実時間を考慮して決定する。(TR21.5)
- (3) 5000m・10000m に関しては、制限時間を設ける。各レーススタート後、次に記載している時間の経過時点で残り 1 周に達しなかった競技者は、その週のフィニッシュラインで競技を中止させる。

	5000m	10000m
男子	20 分	38 分
女子	22 分	45 分

- (4) 5000m 以上の競技において気象状況により給水を行う場合がある。
- (5) 救急搬送防止および選手の安全確保のため、主催者が競技者の体調を見て、医師または医務員と協議のうえレースを中止させる場合がある。その場合は、必ず指示に従うこと。
- (6) 本競技会は、SIS（スタートインフォメーションシステム）を使用しない為、スタート時の不適切行為および不正スタートの判断は目視で行う。

#### 7. フィールド競技について

- (1) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。

種目	種別	ピット	試技開始	備考
走高跳	男子	A	1m75	2m05 まで 5cm 刻み、以降 3cm 刻み
	女子	A	1m45	1m60 まで 5cm 刻み、以降 3cm 刻み
棒高跳	男子	A	3m60	4m80 まで 20cm 刻み、以降 10cm 刻み
	女子	A	2m60	3m60 まで 20cm 刻み、以降 10cm 刻み

- (2) 走高跳・棒高跳の練習の高さは当日、選手と審判員の協議により設定する。また、悪天候などの不測の事態が発生した場合は、総務・審判長・関西学連の協議により設定の高さを変更し競技を行う場合がある。
- (3) 競技者が 1 人となった場合のバーの上げ方は、本人の希望により決める。
- (4) 三段跳の踏切板の位置は、男子は 13m とし、女子は 10m とする。
- (5) 走幅跳及び三段跳の踏切判定には粘土板を使用する。
- (6) 棒高跳の公式練習はゴムバーを使用する。
- (7) 投擲種目の公式練習は 2 回とする。ただし、ハンマー投は 1 回とする。
- (8) フィールド内での競技以外でのやりの突き刺しは禁止する。練習は審判の指示に従って行うこと。
- (9) 現場の審判員が許可を与えた上でコーチ席にアドバイスを聞きに行くことができる。しかし審判員の指示に従わない場合は選手・コーチに警告を与え、さらに続いた場合は審判長・総務・関西学連等で協議し対処する。(TR6.2)

## 8. 対校得点について

- (1) 各種目の対校得点は下記の通りとする。

順位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位
対校得点	8 点	7 点	6 点	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点

- (2) 総合得点が同点の場合は、優勝種目数の多い大学を上位とする。優勝種目数が同じ場合は 2 位種目の多い大学とし、以降 3～8 位まで同様に比較する。以上の点で同じ場合は同順位とする。

## 9. 抗議の申し立てについて

- (1) 競技の結果または競技実施に関する抗議は、結果が正式に発表（アナウンス）されてから、30 分以内にその競技者あるいはチームの監督が口頭で審判長に申し出なくてはならない。(TR8.2)
- (2) 抗議受付は、TIC に設ける。必要用紙に記入し行うこと。

## 10. 悪天候時等の際の対応

- (1) 競技の実施が不可能となることが予想される場合には、関西学連会長・ヘッドコーチ・競技委員長・事務局長・幹事長と陸協等で方針を協議する。
- (2) 中止種目の得点は、どの大学の対校得点にも加算しない。
- (3) 中止となった種目のエントリー料の返金は行わない。

## 11. その他

- (1) 事前欠場者の人数により、番組編成を変更する場合がある。
- (2) 記録証明書の発行を希望する競技者は、正面エントランスに設ける受付へ発行手数料 300 円を添えて申し込むこと。
- (3) 競技場に立ち入る際は、競技場保護のため、ヒールなどの底の固い靴は一切禁止し、アップシューズもしくはスニーカーで入場すること。該当する者について、発見次第、競技場の立ち入りを禁止する。学生審判員・学生補助員についても同様であり、十分に注意すること。
- (4) 競技者は競技区域内にビデオ装置、レコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を持ち込めない。(TR6.3-2)
- (5) 競技者は画像を撮影した人とコミュニケーションを取りながら録画再生機器を手にしても良い。(TR6.4.5)
- (6) 注意事項及び学生競技者としてのマナーを逸脱した行為などが見受けられた場合、その学生

の所属する大学の以降の競技を中止させ処罰を与える。

- (7) 競技終了後、競技者は指示に従って速やかに退場すること。なお、退場する際に大会本部前を通行しないこと。
- (8) 大会期間中に疑問な点があれば、大会本部まで申し出ること。

関西学生陸上競技連盟